

2822
713



2822

へ13

2822

旧
漆

2132
104



軀^ミ州^ド此^レ多^ク多^クりて一^ノ字^ヲを^得たり。

船^カ牛^ウ頭^シを^かりて一^ノ字^ヲを^作。總^ツ是^レ

蚪^ク斗^ト此^レ文^ノ字^ノの^出来^ルは^たた^はる^南元^原

字^トと^画と一^ノ體^ヲ分^カり^て故^ニあり

片^ク豆^トを^得り^て小^カ回^ノの^存其^角

茶^チ也^ヤ龍^リ子^シ梵^フ字^トは^才の^ひ移^リて^龍雲^雲

一
字

古人已于此。眼と詩を言ふ。余
 数程此戯畫を作。是乃久矣。
 此化物也。一度圓を絶倒せり。
 且つ不事あり。古人いつく詩を画に
 陰芝居あり。画を詩の土生程言あり。
 詩を畫りて以て形を見せ。画を形

と以て聲をきかむ。形あ程を必
 奇かきんが。あるう。因此戯画
 此か多う。丹詞出と。此て形と。奇と
 鼻使せしむ。り。是と奇妙と。言
 人あ。ハ。戯画此功名といふ。

東都 山東 審 京 傳



常信書



紫野大心和尚筆

大化七年四月

古
法



同



新法 うま小まら

うま小町いひなる
 人形町音ハダ店不
 けり小念の不働
 めらふて代積百文
 二米乃ちらふのせ
 たり

小のまら



あつじやう 遍照

松はまの

かるわうふきうせふ

小米乃ま

茶

と

人かたるふ

おま

やれめーと



さっせん
 かいせんの字はさき
 つたうなるす業あるふ
 わそびふんふんふん
 老るるもふんふんふん
 ちるふ老れとつ
 知昔、
 おいづがと云
 享保の比ある
 未れの句に
 おいづがのつりち
 くらゝ様
 け



かいせん
 憇界仙都
 昇平樂國

西行もまご
 えぬをの
 らまごが
 山東巻



まん遠うひら

世に中といふまて
こそさうさう

其角

小傾城ゆれて

あぶら

年の暮

かぶらいたはは
いねなり乃々ふ
わさうふとえ



彼名をいふ

嵐雪

つまじき女

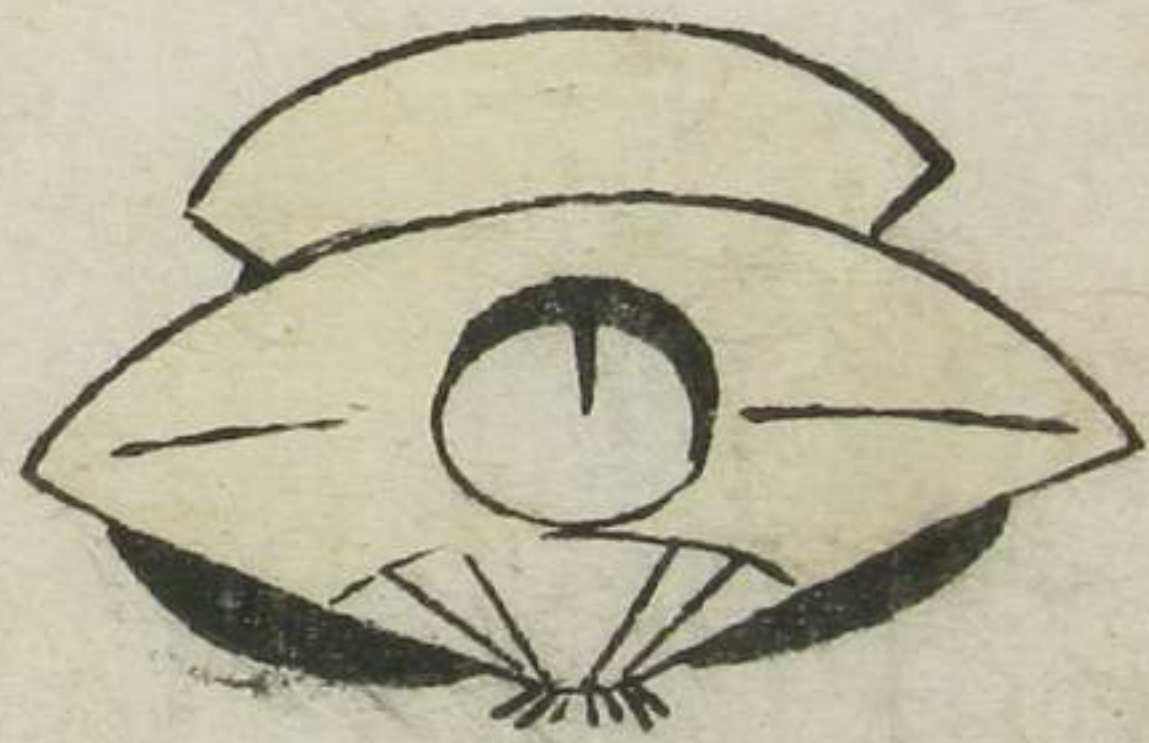
ひかきつくぞ

あられを



あぶらぎのきりぎりす

むらぎのふしあぶらぎの
まゝとん夫とわつげりり今
ヨリおとりのきんぎらげ
とうぎのわらまみん
ういどぢりけりもけいん
あんうこまま入のまてきりぎ



あぶらぎとわつてきりぎ
くくくくくくくくくくくく
月まのわらまみん
下ふ比勢箱あり

日のこやぐら

まじあつてきりぎ

あぶらぎとわつてきりぎ
ちよとふ大らんがら
つとてもちのよま
ちよとわく板
やうこしうふと
しそやんと
そしとま
こつとてゆりり
くしとま
それ大のんやうとま
らんをわんどぎとま
うりぎの大がらり



くーや
うまのあまのえぬで
くどやく

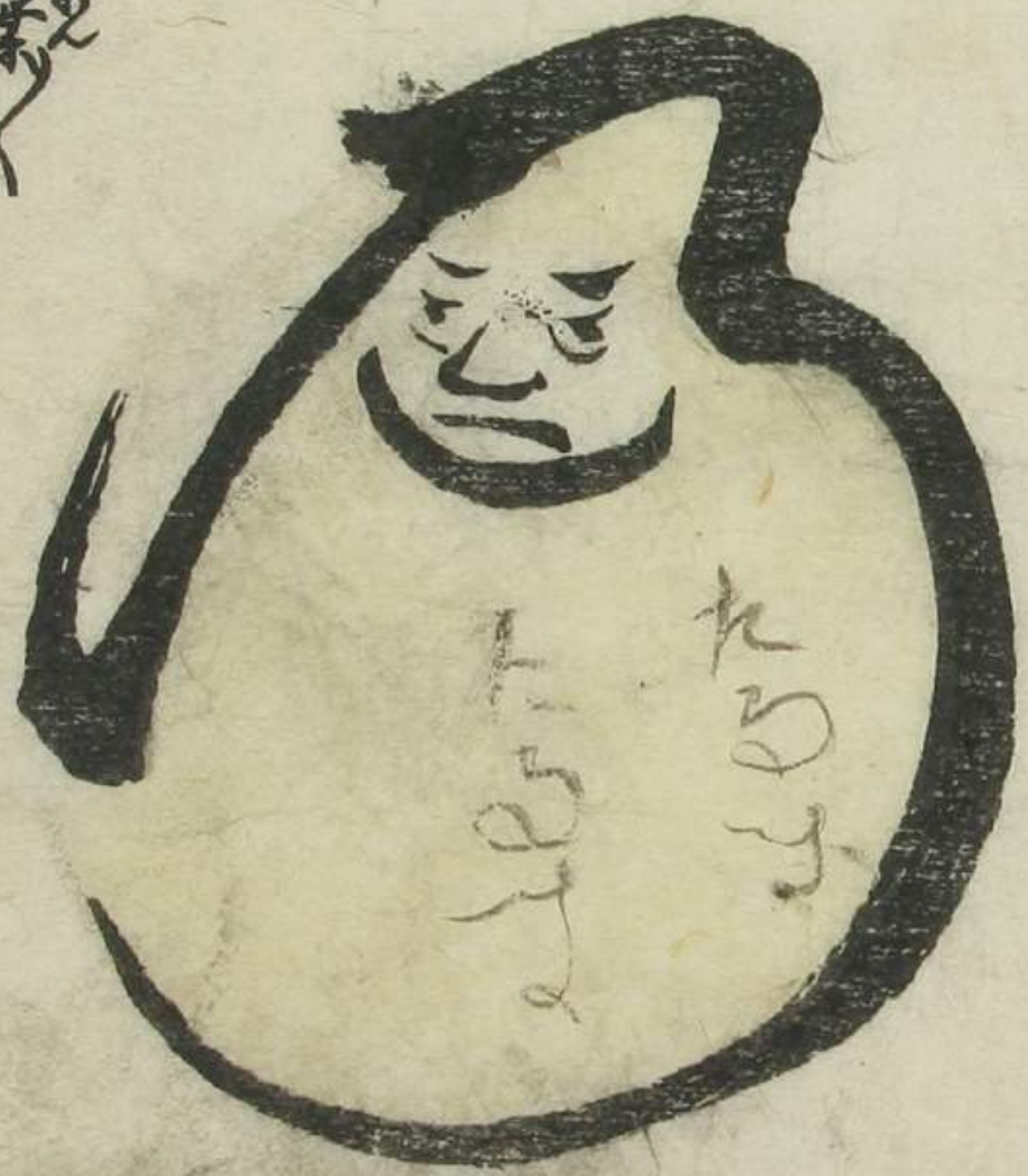


うまのあまのえぬで
くどやく

遊磨乃家

狂画別傳
一流案思

達磨さんご
げいや宗
あまのえぬで
けは貝ハ案



まがまひのり

かぢらて

うせろの

おまらり

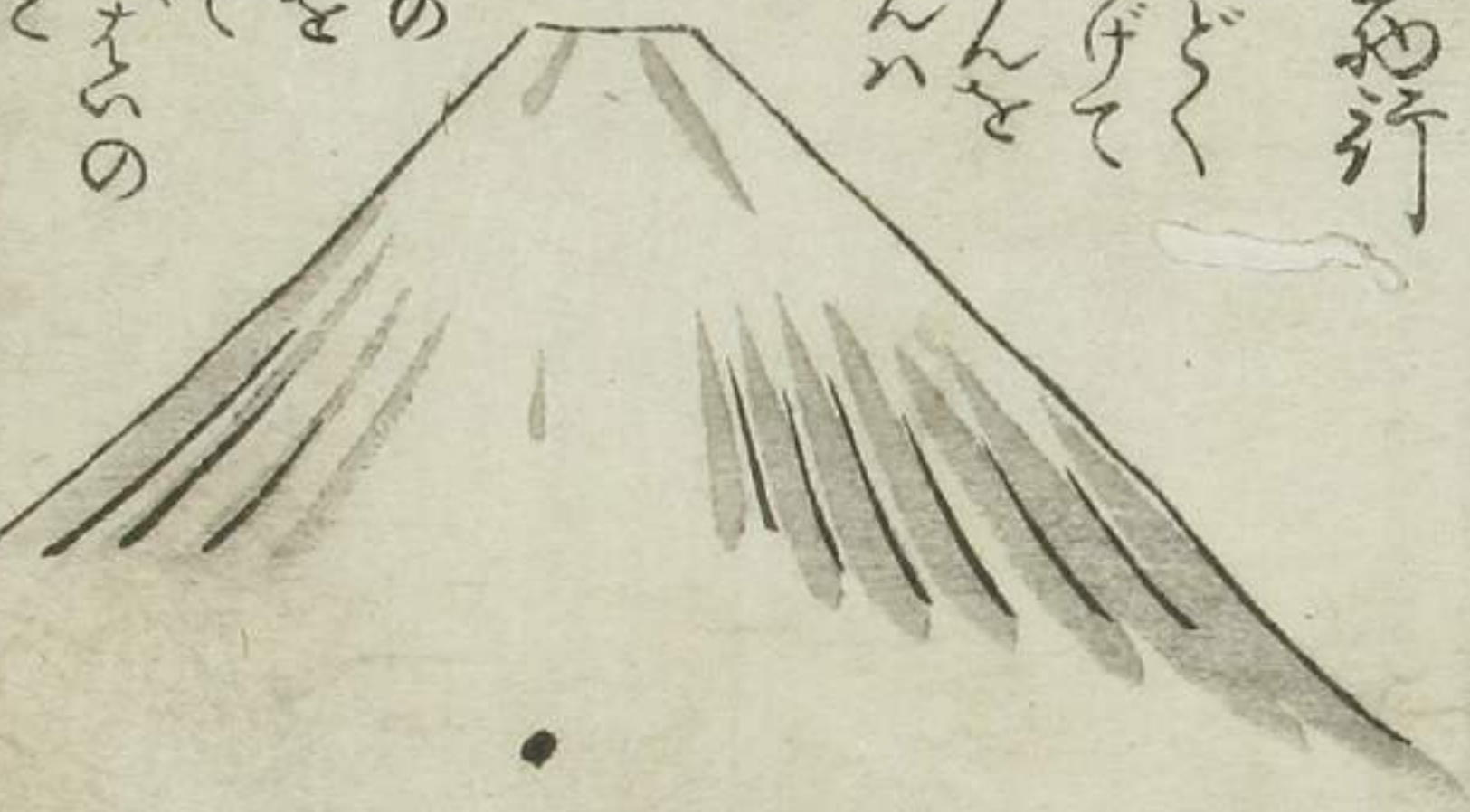
あま



祓^{ハヒ}ねまごがわて
おそかいとらドも
こまごがごさん
まがまひのり
あま

たごんお行

ふどの山のどく
そのとうきわけて
その中ごごんを
いけるたごん
つまごころ
なまごご入
ごごん
まがまひのり
むらへはまの
あまらり
まがまひのり
けありてちねまの
まがまひのり
まがまひのり



布袋のうしろ向

お菓子くわて

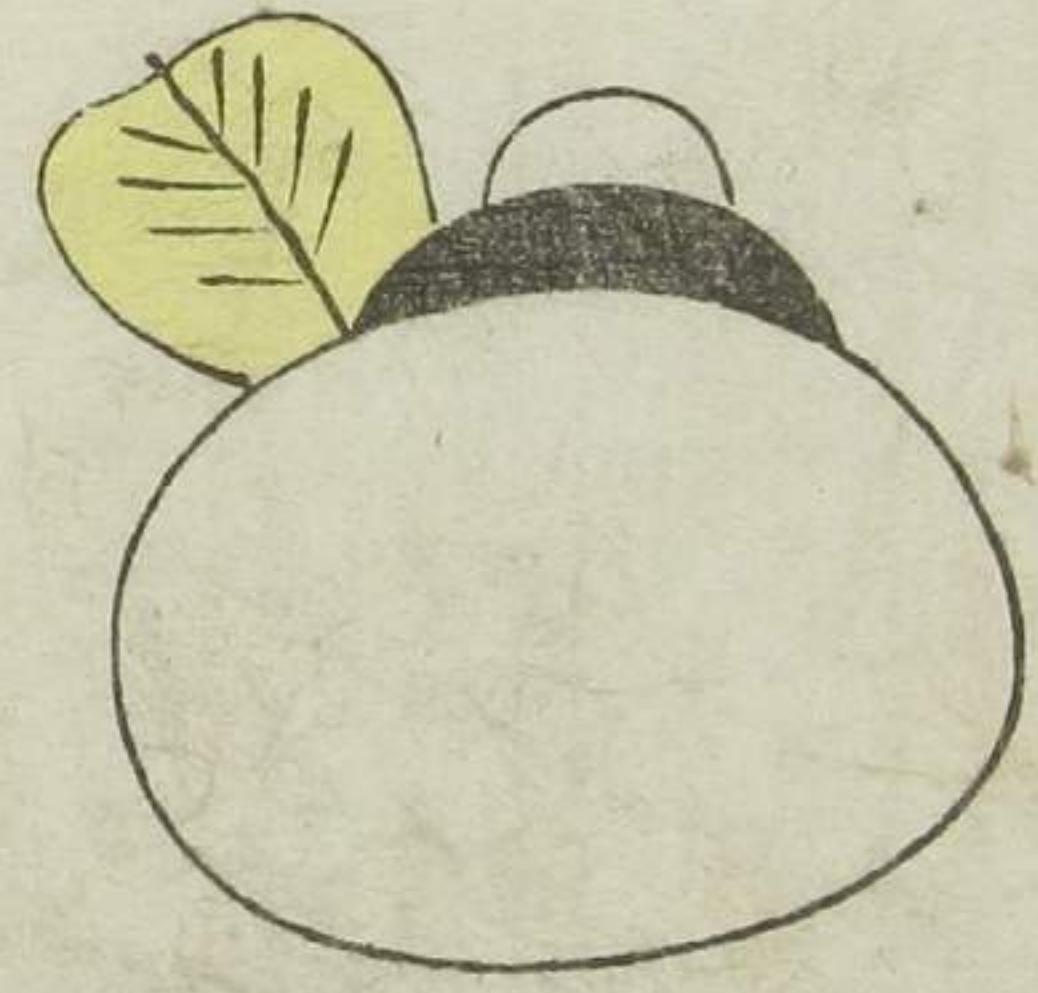
布袋らまぬト云

ふろさじはより

出さる

ほんどの画きり

つさそそのゆらち大小三つなぐ中なめろこし條
をやくうためんどうちらふてあやぐきり



解人

通人さまの

おつぬい〜

うつてくる

大さきもの

ちんちんちんちん

よちんちんちん

ちんちんちん



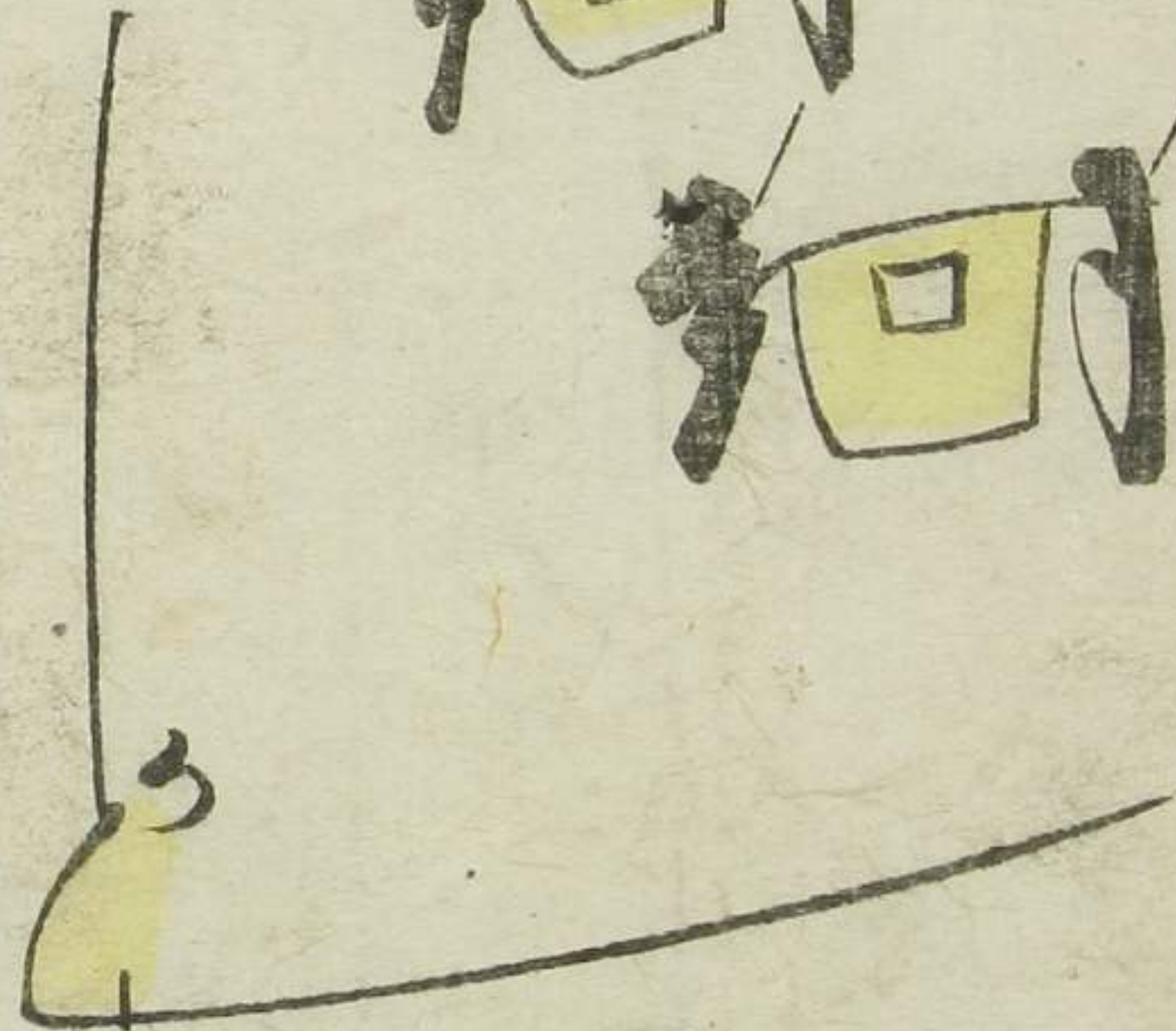
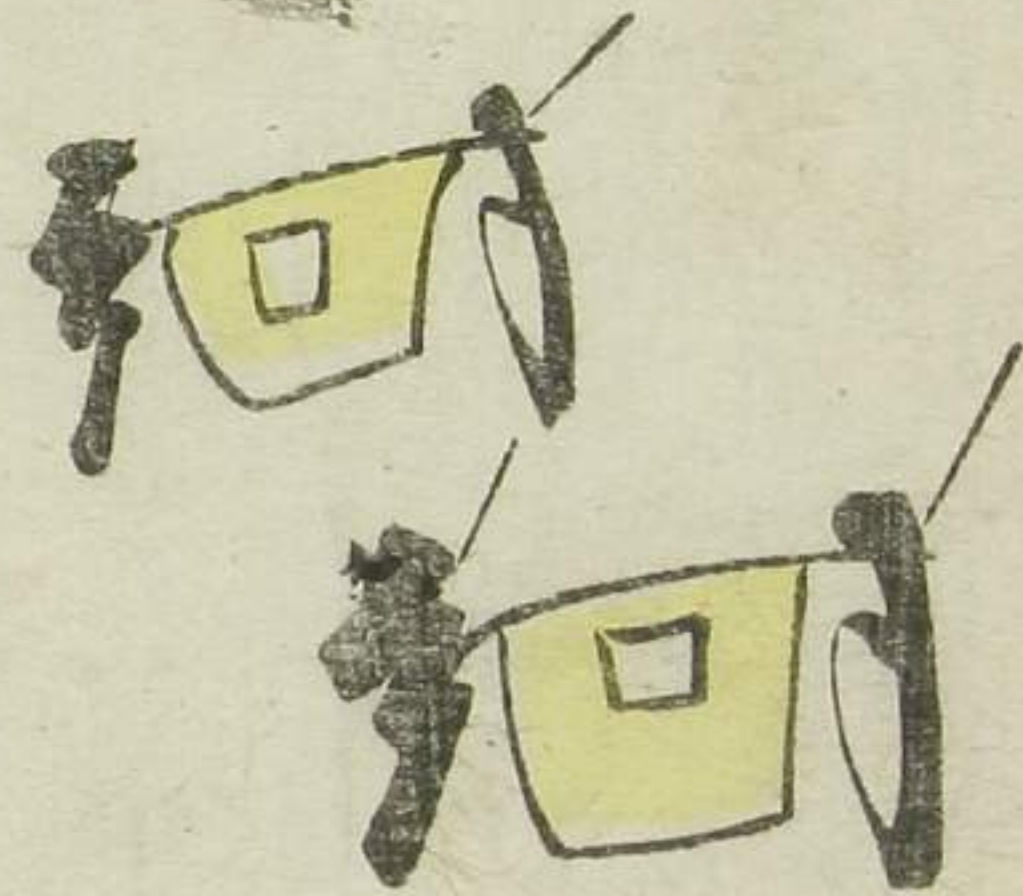
ふうどくご

ふんがみふ
くまごこと
ふんがみふ

ぬのの
おと

あくるうごき

うし舟

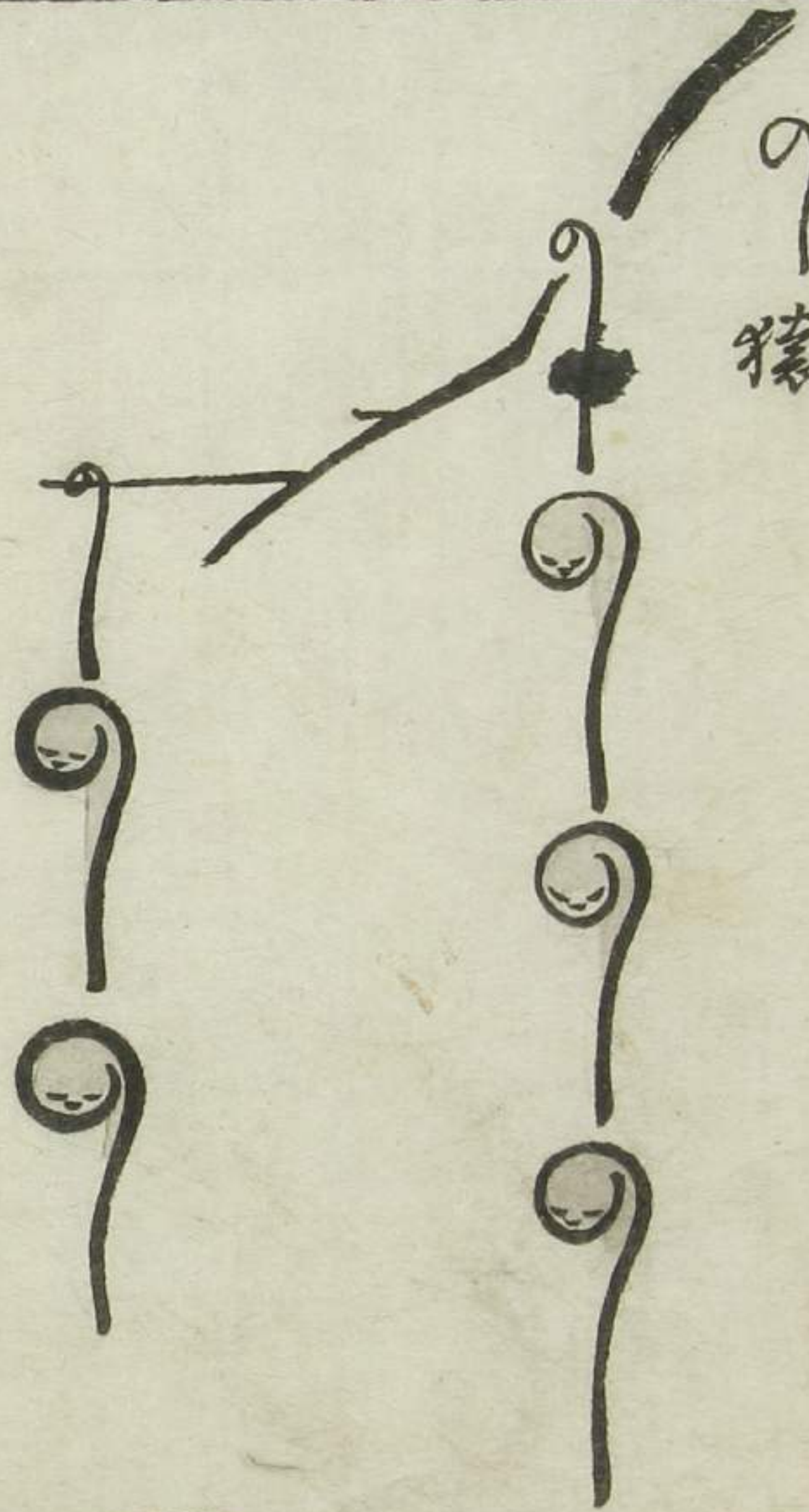


松位

根びきまのきやぐも
ななせいおちばうくまを
いさふふくくしてなを
をりひきのあせし
ひきまのきやぐも
ちりりりり



の 猿さる



のしこー山ハ法小何さども
多んアまよ申のしぞろも

なまぬきん

晋子

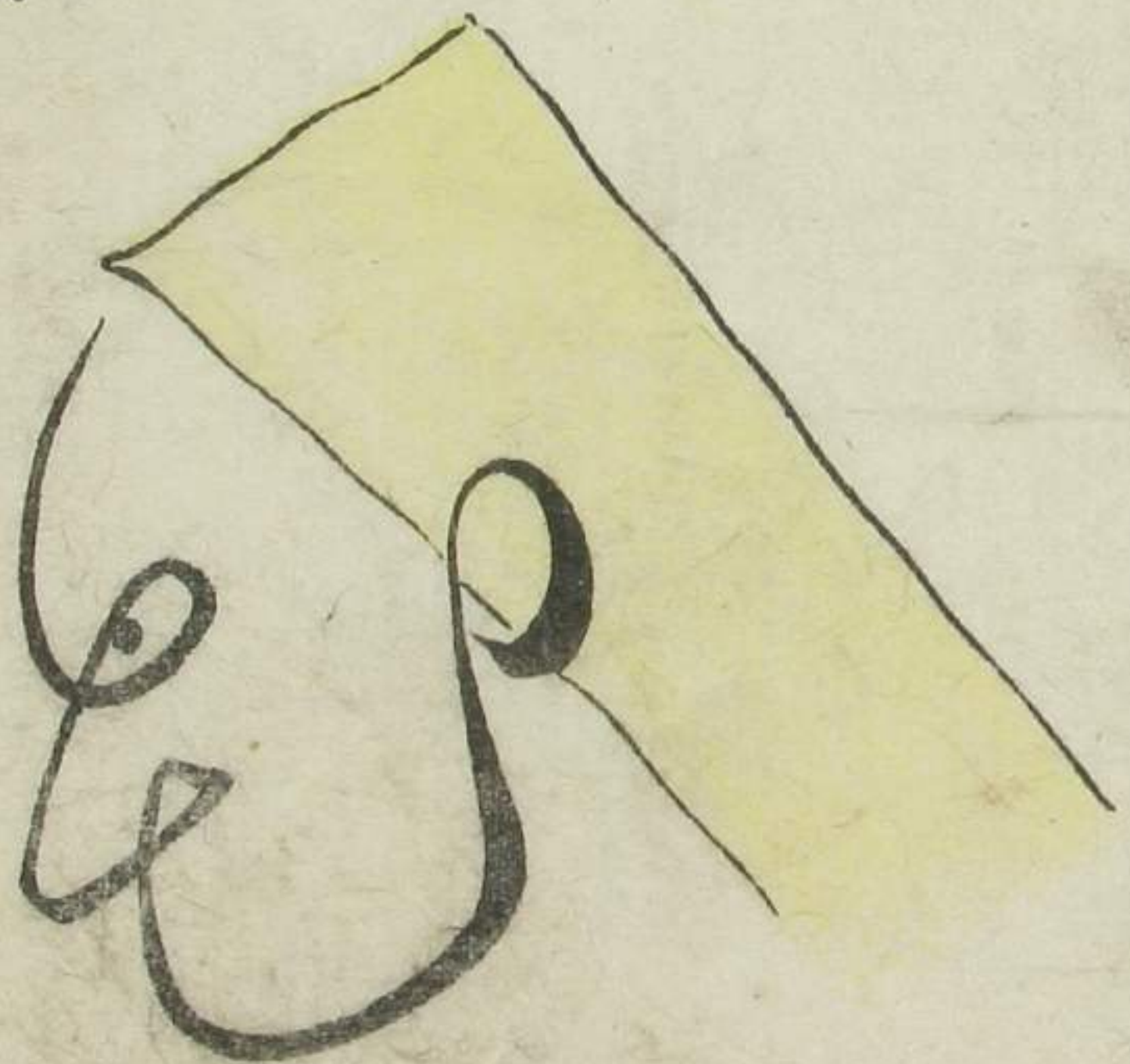
ごろがうや

花のうけむて

ふまれさめ

土生さやらんが

あり



みづきたて 縮

由良の

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき



三又

火とさり

うら

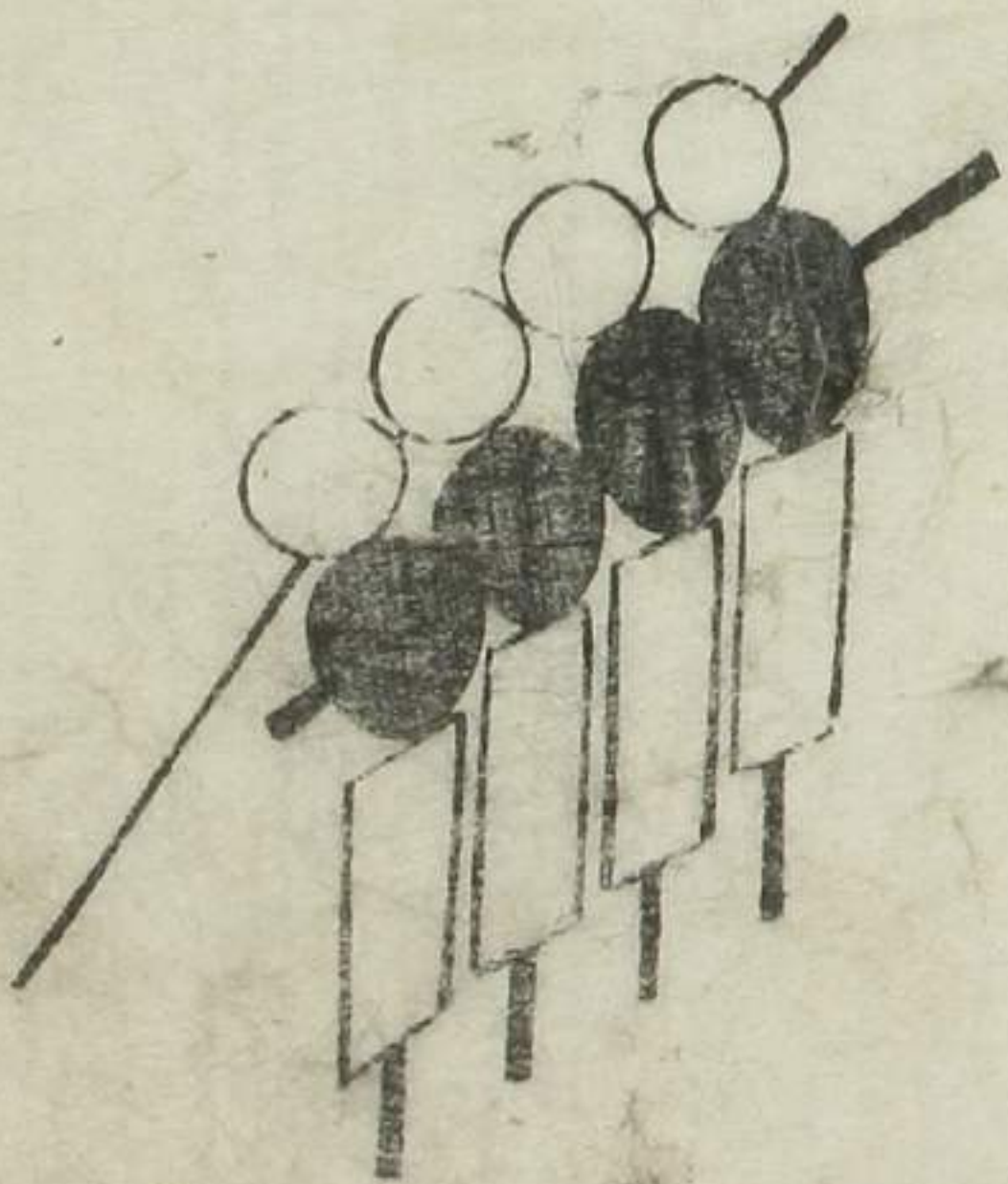
うら

うら

うら

三又の
アヤ

むくハ三又今ハ上下ナシ



ののこし まげら
 こまをさし
 おきかた
 こいのとま

花のり

金うぐらう

竹尺

そんがむごいおきまのり
 のり
 おきかた



大入まごうく

当村ひやうばん

大入まごうひやうばん

中の中のものあひま

あひまごうま

ごうま

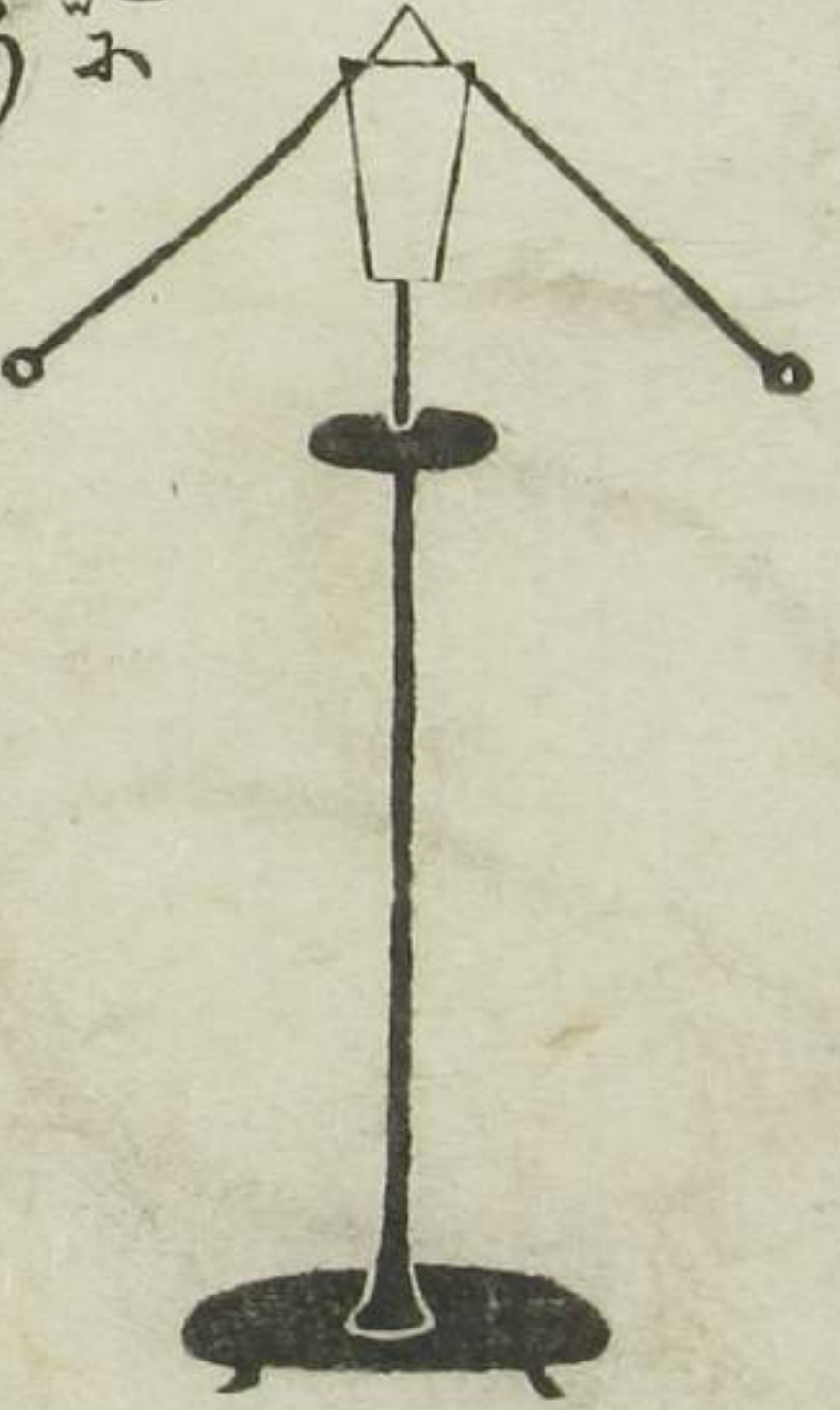
下畧

市川園十郎が
 まごうくは後て大入まごう



五流らうそく

らうそくのあつたに
 さんせうしてあつたもの
 ざんせうらうそく
 さつせうらうそく
 きやくのうらうそく
 くらなごきてひさく
 とまることありとか
 甲のえんじら 庵丁の記ふ
 えんじら
 しんごきんごんごんまり
 るふあきぬいさなごそりらる



の馬

ひかりの馬たうあて
 ひかりの馬たうあて
 まねた



志んきり



加別の余とふ 一んきり
いれむとすむび又まうし
つみねいんきりいれむと乃やふまのとならきり

室の

あまの

ちよとら

ねむけの

神が

あまのあまの

おまの

室のふいふ

むかしくか

らんをさすいふあり



布袋堂 一若工堂と子

候の山へ入る
自とひあつくハ

久しき

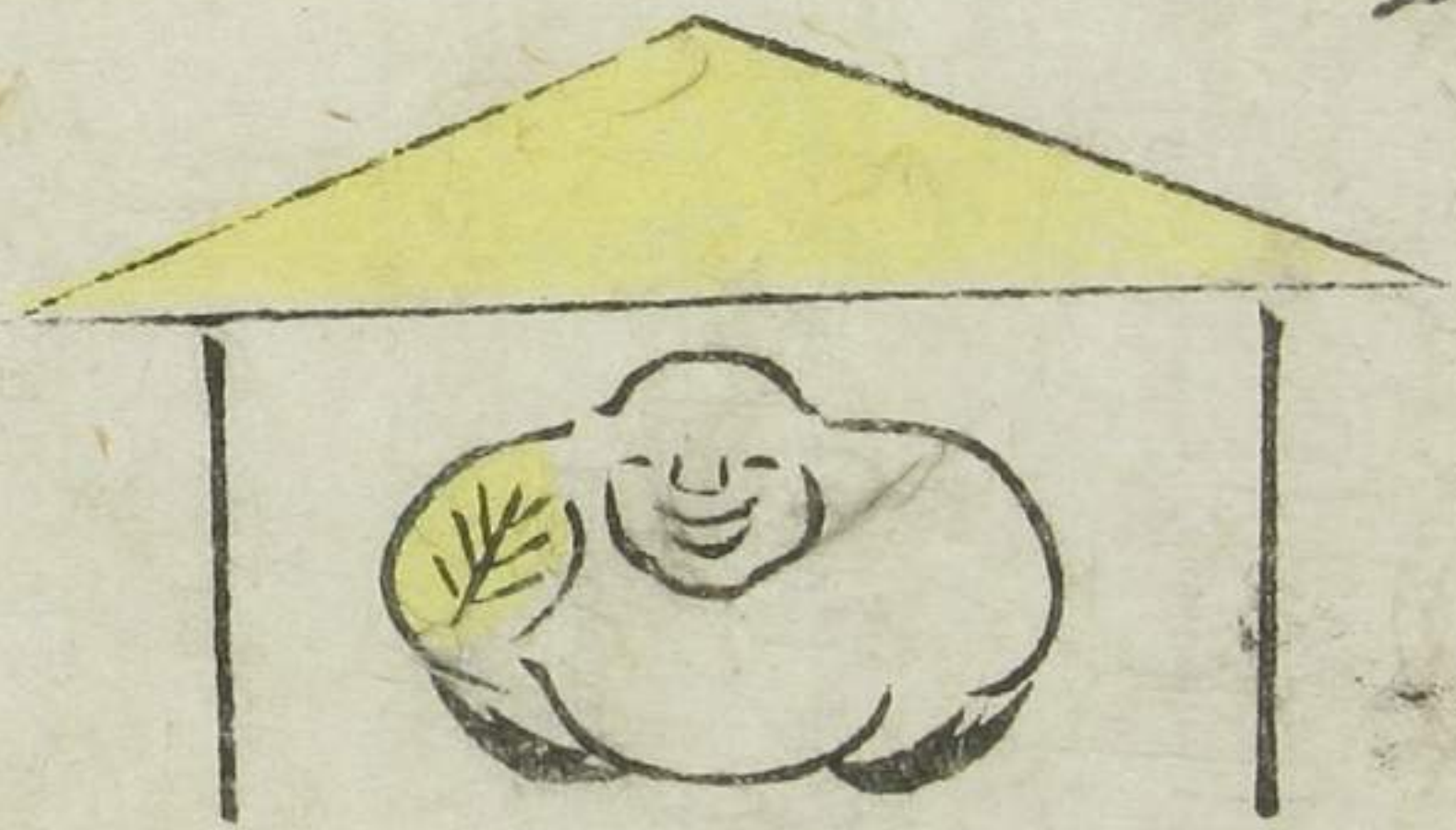
でんうくのちづく
くま

まねんや

け日くくくくくくく
くく

この盃とまひて

あふ



鎌屋のた火

火より箱で

やたこそかや

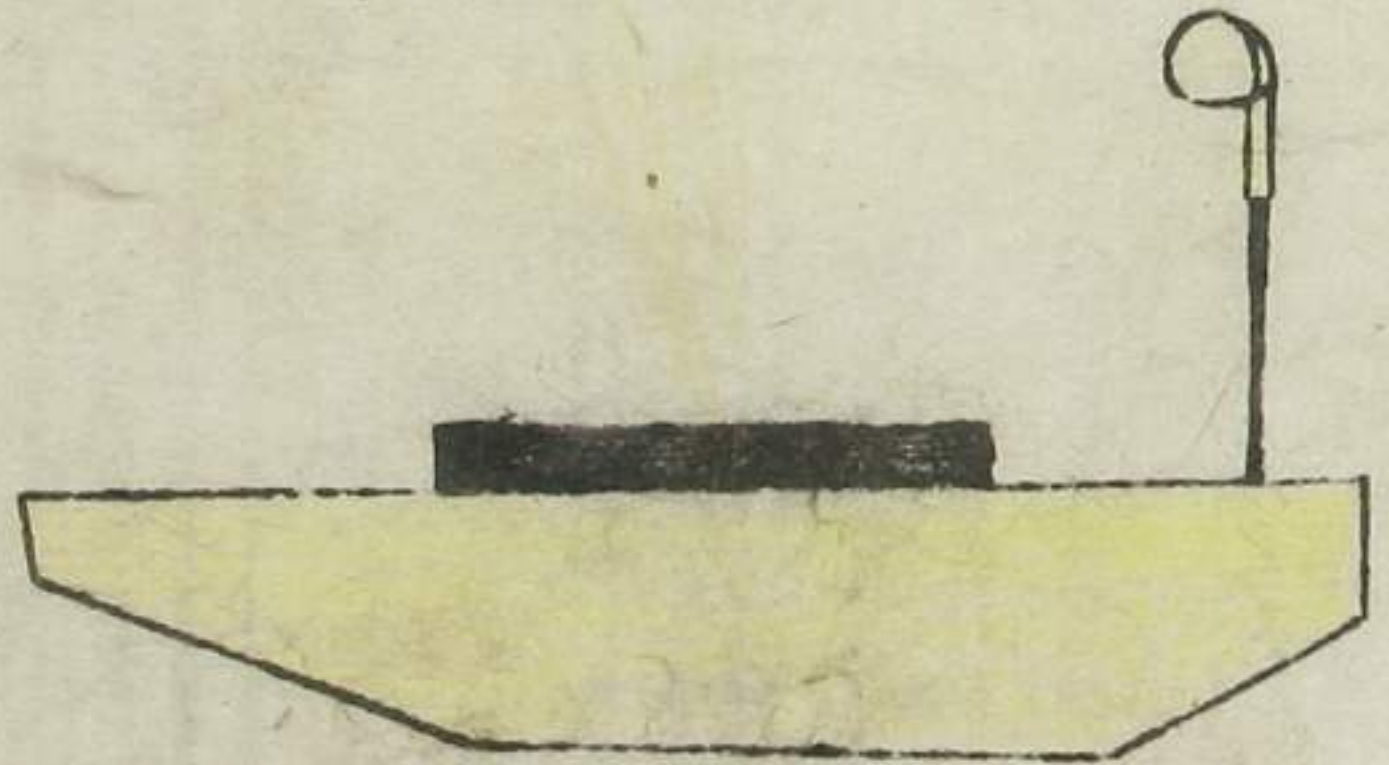
人もしとるるこハ

ぢよあひか

へあがた火 其角

ちもなま

まろが



宝獅子

たつとていふとんつふ
傳めば

けいけいのまは
むらさきいろまは
よひかきやう
とまはる



えびかんま

水子ままが

ちやがたがけふ
水とまらまら
大とあつ火とま
者かとりつて



假名繪なまゑとる

け假名法さるはう
しんのむじごさるる
ころかと假名さるる
とまけんヨリ



く大黒

新板乃様本
ふくたごがま
こんど圖をり



ふん一丸

みちのやまの柳
垣のりよのたんぼ

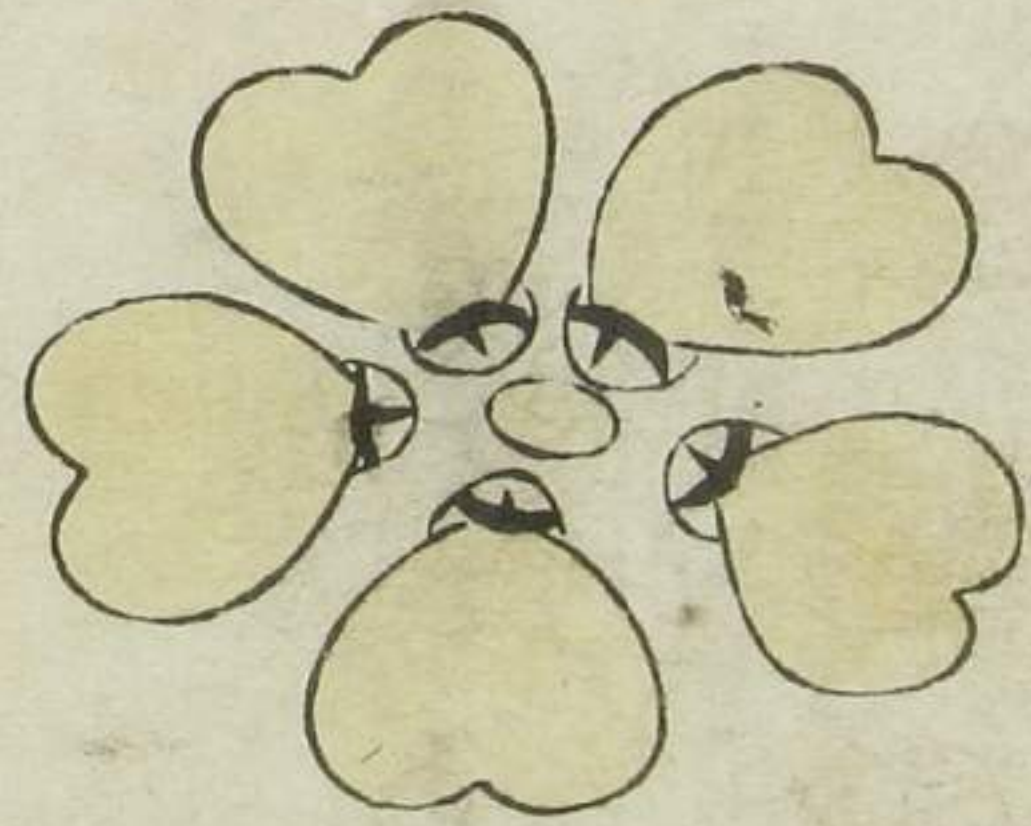
とらばー 山東庵

うーやた

文女も雲乃

中の町

いづき花とのかぐとまふん



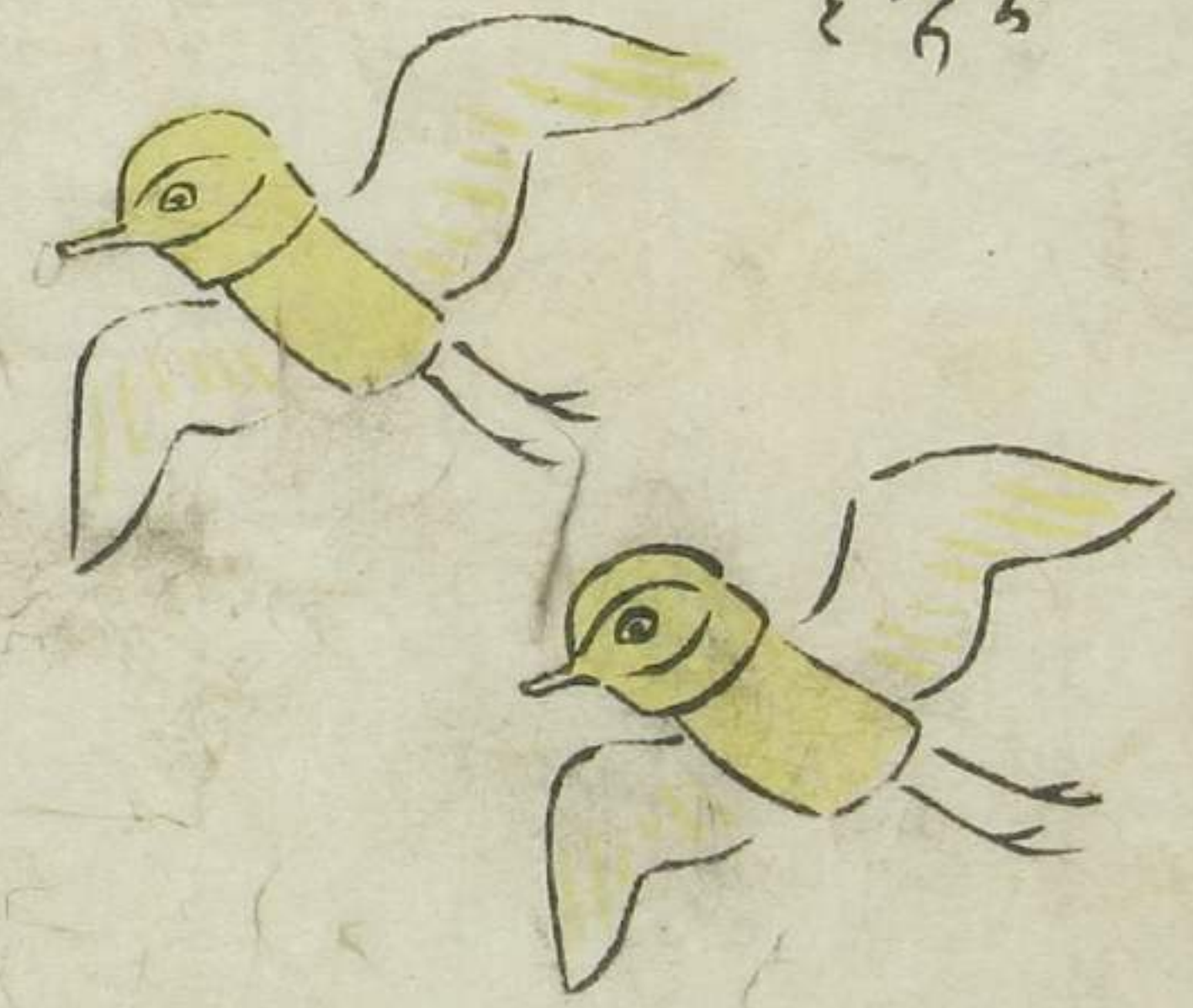
ななとかがぶと



みづきま(ねとがのやう)ふん一丸
みづがりのふん一丸してまふんがふん一丸
こまびくち(ねとがのやう)ふん一丸
おちやのこま

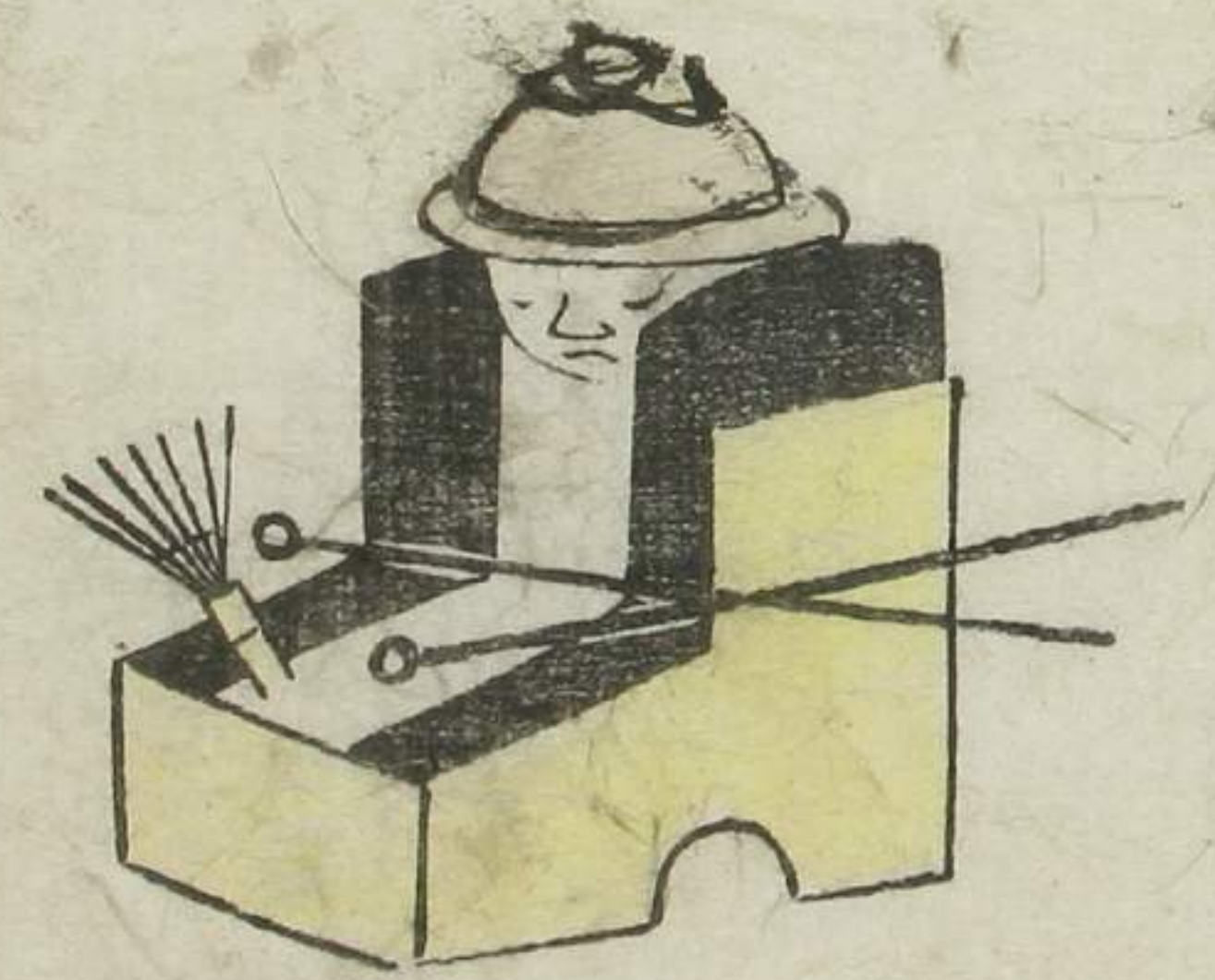
うそ子も 一息えらちり

あつちの...
ふしちり...
ちりり...
小...
け...
ち...
ま...
ち...
酒...
そ...



空屯兵衛

あ...
わ...
こ...
あ...



いさご松魚

相州の住

楽る小うろかめ
いさごはうろかの
さみみの地はう
尾小まのつさなるか
まうろかともうろ

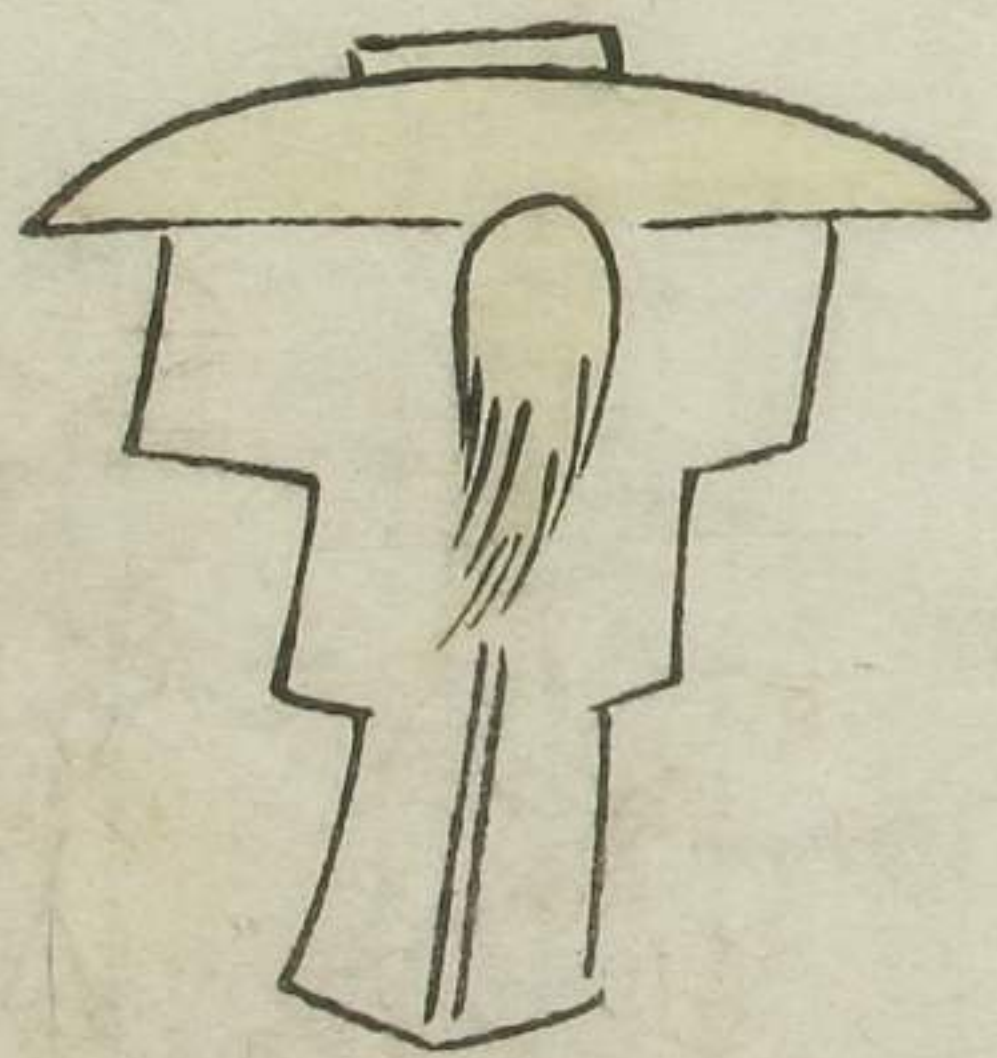


いん掬いん

おしりいんをさか
へいんをさか
いんいんのいん
まいんのいん
いんいんのいん

掬いんのいん
のいでなる

いんいんのいん
いんいんのいん
いんいんのいん



くみ
久米の平内兵衛

久米の仙人の女の

まきの白蛇とて

通とてうーまひ久米の脚ハ

お梅が江あおまきとて

身とてうーまひ久米平内ハ

何ゆふ石ふあつとて

まきの人神ふいそひを龍山ふあり
よつてまうとら乃字と用也



よぬあ

凹石川夫山乃

名なりこそハ

あまのつとどや

だんの園あり

あさちよりあひ

ちうとくふんこのとてうーま

ありといふとてうーまうとら人か

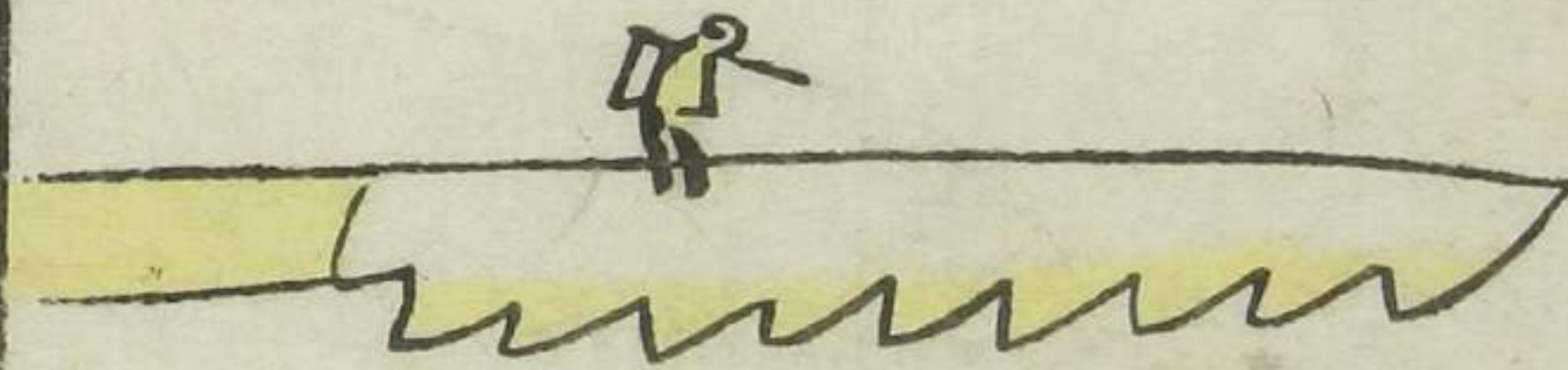
よつてまうびくのま字と用也



舟をり

そめのまゝりふ
やどもあまらる

こまにかんき川へみ
とまこちありあは
ひくともひひせまる
ともひのこまりふ
あんわりあふり
くちらびおちらぶ
とらんとしはせん
坊にせてもあまらる

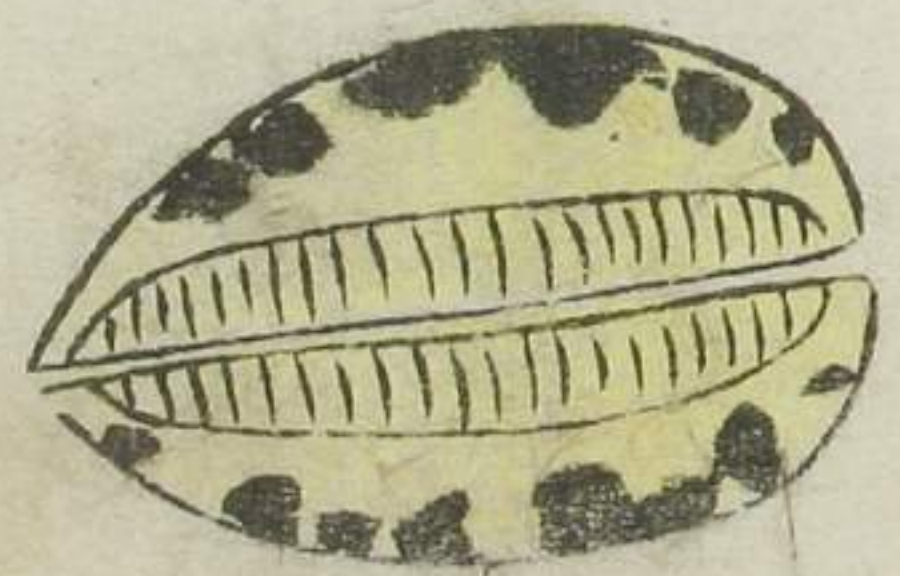


いぢき

あまりの
ほいの

こんきくしとれ
ゆふ子に静奥の
くひをとつ

くくふいて
ねごりあ



乃ん神さぬ

かなんくろぬぐろ乃天作ふんとい



てなうさ
おのの
かくすのうて
はくしんてぬん
清せい

是のうのそんまかめのはん

福まのどけ

ねんて
ふんて
よんて
こと
なり
おん



ねんて
まのどけ

まのどけ

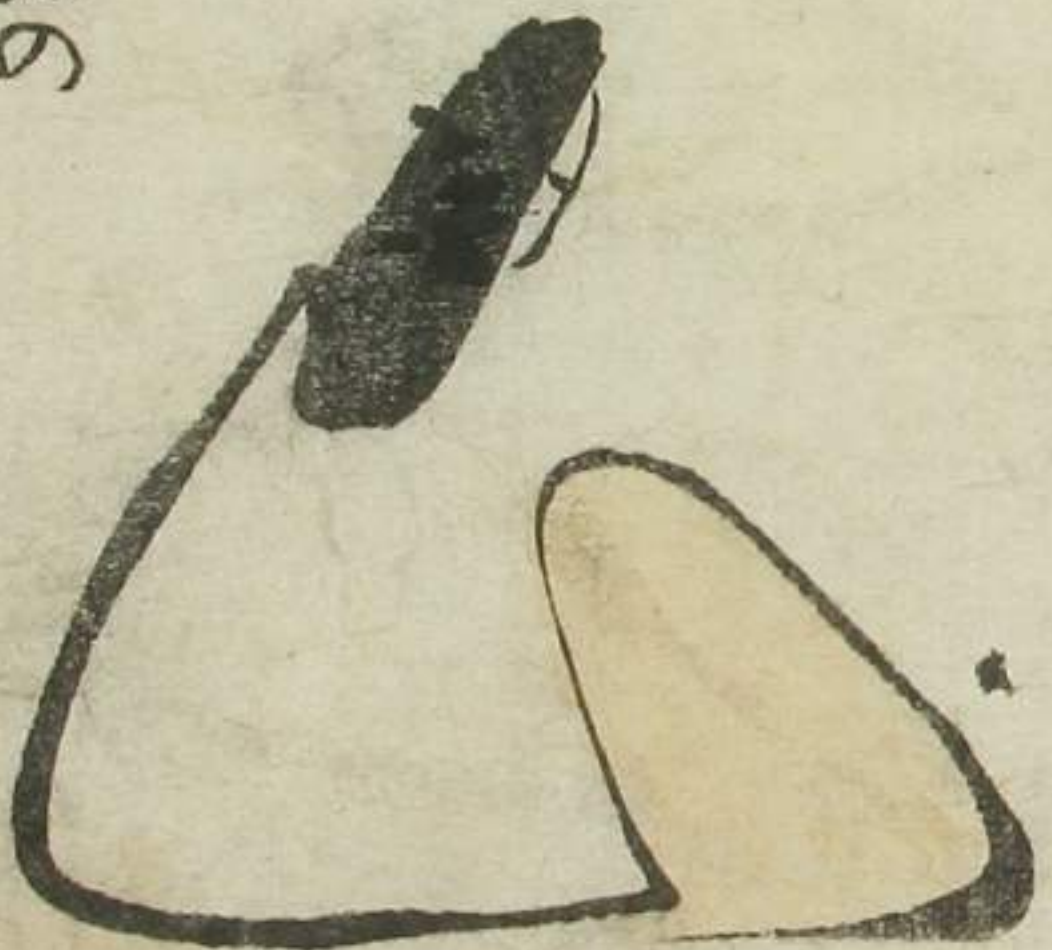
池ち鯉り鮒ふ

此こ鮒のおののひひ付と
ここもも子子位位ののふふちち
くくふふととままつつつつ
ふふががふふぞ



ふふががふふぞ
ふふががふふぞ

ふふががふふぞ
ふふががふふぞ
ふふががふふぞ
ふふががふふぞ
ふふががふふぞ
ふふががふふぞ



だんやう

香車の流

桂馬乃りんどくハ

あまどどぎのつり

をのこことうそめて

入ま乃のふるや

りんそん二ぶとつみ

さるもろあしむら

驚しやうざかま



三十一

